

千葉市

手をつなぐ育成会だより

第 163 号

令和 2 年(2020) 8 月 25 日
千葉市手をつなぐ育成会

会 長 成 田 智 子

千葉市稲毛区作草部2-4-5

でい・さくさべ 2 階

TEL・FAX 043-206-4050

✉ chiba-chibahands@dance.ocn.ne.jp

困難な時も 手をつないで

会 長 成 田 智 子

今般の新型コロナウイルスの拡大では、私たちは毎日の生活を変えざるを得なくなりまし
た。その状況下でも施設や学校、
いつも支えていただいている皆
様にはより厚いご支援をいただ
き心より感謝申し上げます。
我が子の施設では通常、外で
の活動が多く、それらがいつべ
んにできなくなつて職員さんは
本人達の毎日の組み立てに相当
のご苦労があつたことと思いま
す。息子は、最初のうちはイラ
イラした様子を見せていました
が、そのうちに以前と変わらな
い顔になりました。こだわりの
強い息子でも、「まあいいか」と、
環境に合わせることができたの
かも知れません。そう思わせて
くれた職員さんは、やはり息子
の一番の理解者です。
日々関わってくださる職員さ
んの影響はとても大きいです。
こんな状況の時は尚更ですが、

ふだんから子どものことについ
て共有し、何でも相談できる良
い関係を築いておくことが安心
につながります。計画相談の相
談員さんとのモニタリングで
も、本人にとつての生活に変化
や支障が出そうになつた時など
のこともしっかりと話して積み重
ねていきましょう。

育成会の活動もこれまで通り
とはいかなくなりました。総会
は書面決議となり理事会も開け
ず、会員で集うこともできなく
なりました。改めてその大切さ
を感じています。困難の時です
が、「手をつないで」いられるよ
う、育成会の役割を考えてまい
ります。

▼今年度の正副会長▲

役 職	氏 名	担 当 部	担当委員会
会 長	成田 智子		こ ども
副会長	長谷川 悦子	レ ク 部	あんしん
副会長	土戸 博子	文 化 部	はたらく
副会長	佐久間 光正	研 修 部	せいかつ
副会長	大里 千春	広 報 部	せいかつ
副会長	藤 芳 晶	広 報 部	こ ども

よろしくお願いします



就任にあたって

(社福)千葉市手をつなぐ育成会

新理事長 栗原 一雄

と思います。

初代法人理事長でもある堀越
ちいさんの思い出と共に理事長
に就任し、早いもので5か月が
経過いたします。就任直後より
新型コロナウイルス感染対策に
翻弄されておりましたが、この
時期に法人各事業所が無事運営
できますことは、育成会会員の
皆様、また利用者ご家族のご理
解・ご協力の賜物と深く感謝い
たします。
日々暗いニュースが多い中で
すが、このたび千葉市に応募し
ておりました「障害者基幹相談
支援センター」を、当法人が公
募により受託することが出来ま
したことをこの場をお借りして
ご報告いたします。同センター
は、介護保険の相談支援事業所
である「あんしんケアセンター」
の障害者版といったところで
でしょうか。稲毛区を中心にした
地域密着型の相談支援センター
です。今後はこのセンターに地
域の様々な課題が集約されてく
ると思いますので、それらを検
証し、千葉市と協働して課題の
解決に取り組んでまいりたい
と思います。
例えば、当法人は設立当初よ
り育成会様と車の両輪の関係を
保ち連携をもたせていただきな
がら、運営をしてまいりました。
それは「親御さんの思い」とし
ての育成会様のご意見・ご要望
を糧として、法人の「あるべき
姿・進むべき道」を模索してき
た歴史とも言えます。現在はコ
ロナ禍で意見交換の場もままな
らないところではありますが、
今後も引き続きご指導ご鞭撻を
お願いいたします。

伊藤 修前理事長のご挨拶

この3月、新型コロナウイルスで大変
な時、一身上の都合で退任し誠
に申し訳ございませんでした。
なお、後任の栗原一雄理事長は
千葉市の障害者福祉に精通し
法人育成会に相応しい人です。
退任して5か月になります
が、利用者さんの優しい笑顔や
仕草をふと思ひ出す今日この
頃です。育成会の益々の発展
と皆様のご健康をお祈り申し
上げます。

コロナ禍の今 思うこと



知るから始まる

元会長 久保田 美也子

「ばばは、さとおじちゃんが生まれる前は、障害児の事どう思ってたの?」。巣ごもり生活中に大学生の孫から聞かれました。直球。こんな機会はないと思っただけで正直に答えました。障害児なんていやだと思っただけ。

誰でも五体満足な子をと願いますね。それは相模原事件のあの人が、信じて疑わないあの主張と緩くつながる思考なのかも。知らなければ普通の子がいいと思うでしょう。だからなのか、私はこの業界に入職してくる新人さんに会うと、この仕事を選んだ理由を聞きたくなります。

聡史が利用している施設は、感染防止のために4月以降入所者の帰省制限が行われました。長期にわたって帰宅でき

新しい生活様式って?

前会長 島田 貴美代

なくなったのに、皆、穏やかに過ごしているそうです。置かれた環境を受け入れ、いつものように暮らすって、なかなかできない。見た目と違い、この人たちは見える人には見える生きる力をつけていくようです。そんな本人と覚悟を持って支えてくれる職員さんから、親がいなくなったら…なんて心配しなくていいと教えられた気がしました。

親がしておくことは、親自身が子ども

新型コロナウイルスという目に見えない相手と向き合ってから半年が経ちました。いまだに終息の兆しすら見えない中、また感染が拡大しています。そんな危険な環境の中で私たちの生活を支えてくださっている医療、福祉、食品、運送関係の皆様、緊急事態宣言の中でも、障害のある人たちを休まずに受け入れていただいた福祉施設や特別支援学校等の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

少しずつ日常生活が戻りつつある今、「新しい生活様式の構築」と言われていますが、変化が苦手な我が子たち。いつも行っているお気に入りのお店に行けなくなったり、外に出る時に

もの周りの人たちと、よい関係を築くことでしょうか。聡史の親になったお陰でいろいろな立場の人とつながり、たくさん教えてもらい、助けてもらいました。普通の子の親だったらこんなつながりをどれだけ持てたのかと想像します。

親の会は異世代とのつながりをいとも簡単に作ってくれます。それなのに今は会えない。それでもつながることを忘れないで。人貧乏にならないで。

は暑苦しいマスクを必ずしなければならなかったり、命を守るためには大きなことです。そのことを上手に伝えることは難しいと痛感しています。

そしてコロナ対策だけでなく、近年

は自然災害がいつ何処で起きてもおかしくないのです。避難所や安全な場所の確認・備蓄など、日ごろから準備をしておく必要があります。

今経験している非常事態生活の中で、ソーシャル・ディスタンスが難しい障害のある人たちへの支援ですが、一人ひとりに寄り添った環境を整えていくことが重要だと感じています。それぞれ感じているストレスや不安を少しでも軽減できるよう、苦手なオンラインやリモートも駆使して、積極的に人との繋がりを作っていくことも新しい生活なのかもしれません。



あめんぼクラブ ありがとう

放課後デイのような支援がない時代、放課後の活動場所を作りたいと、手を挙げた方々を、育成会がバックアップして、5つの放課後活動が始まりました。

以来、今まで唯一活動を続けてきた『あめんぼクラブ』がその役目を終え、昨年度末で活動を終

了いたしました。

こてはし温水プールにて、プールでのマナーや、家族以外の人との関わり方などを体験できる場となり、水泳のスキルも上達し、思春期の肥満防止や、ストレス発散にも大変役立ちました。今まで、どれだけ多くの家族がこの活動に参加されたでしょうか。

長きにわたり支えて下さった、たくさんさんのボランティアさんにも深く感謝いたします。

(副会長 長谷川)

10月24日に開催を予定しておりました第54回関東甲信越大会千葉市大会は、新型コロナウイルスの収束の見通しが立たないため、中止とさせていただきます。ご理解のほどよろしくお願いいたします。